

平成24年度 北海道音更高等学校学校評価 自己評価書

分野 領域	取り組んだ項目	達 成 状 況	改 善 の 方 策
学 校 経 営	・校内研修の充実 ・授業参観週間を継続して設定 ・時数確保 ・シラバスの有効活用 ・協働体制構築 ・職員評価に伴う各教員の自己目標設定 ・地域との各種連携 ・昨年度の学校評価を振り返り、教育活動全般に改善を促した	1全項目とも計画どおり実施した。 2校内研修は「授業規律」「評価の工夫」「積極的な生徒指導」について実施した。 3授業参観週間は昨年度より合評会まで実施した結果、授業改善に取り組む意識高揚が図れた。 4全教職員の共通理解と工夫により時数35週確保ができた。 5シラバスは全定ともに整備され、生徒による自己評価と教科担任による所見記入により、生徒との信頼関係構築に繋がった。 6管理職自ら率先垂範し、コミュニケーションから生まれる協働体制作りに努め、相互扶助の意識高揚が図れた。 7各種教育活動において反省を活かし改善する姿勢が見られるようになった。	1 学校評価・学校職員評価システムの適切な実施 ・マネジメントの確立 ・評価結果の有効活用 ・教職員個々の意識の把握 2 経営方針の具現化に向けた計画的な準備 ・コミュニケーション向上から生まれる組織力・協働意識の形成 3ミドルリーダーの養成 ・時代の要請、教育改革の動向を踏まえた情報提供 ・教育活動相互の関連づけを意識するなど、通知等の平易な説明 4 授業評価の実施 5 外部研修成果の還元促進 6 管理職による率先垂範
教 科 指 導	・指導計画の具現化 ・基礎学力の定着 ・組織間連携の充実 ・評価の在り方 ・個に応じた学習指導 ・学習習慣の確立 ・授業規律 ・教材研究 ・習熟度別学習指導の実施 ・TT学習指導の実施 ・基礎補習指導の実施 ・放課後、土曜日、長期休業中の進学講習の実施	1 協働意識があり、連携を昨年以上に実感している。 2 生徒が落ち着いていたが、更に個々の生徒の成長を目指し、授業規律の研修を実施した。 3 年間指導計画が明確である。 4 シラバスが全定共に整備され、教科科目の指導充実に繋がった。 5 個々の生徒に応じた教材研究が不十分だった。 6 生徒の学習習慣の未確立。 7 評価について研修を深める必要がある。 8 進路指導部と連携し、進学指導の有機的・組織的取組のきっかけづくりが教職員の共通理解のもと、進みだした。	1 本校教職員の協働意識や連携を大切に、まずわかる授業から基礎基本(確かな学力)の定着を目指す。継続 2 教材研究の時間を確保する為にワークシェアを推進し、業務の偏りが生じないように管理職、部長、主任を中心に職場環境づくりに取り組む。継続 3 個に応じた学習指導の確立に向けて、育てたい生徒像を明確にし、教育課程の編成や教科科目に応じた対応、学級編成の在り方等、幅広く検討していく。継続 4 家庭学習の推進について検討が必要。
生 徒 指 導	・組織的な教育相談の充実 ・教育相談委員会の活性化。月に1度の定例会の開催 ・個に応じた積極的	1 教育相談の充実が図られ、教職員間で情報の共有化が進んだことにより、中途退学者の減少と特別指導件数の減少に繋がった。特に、後期は特別指導件数は0件となった。	1 積極的な(予防的な)生徒指導の理解と促進 2 多様な生徒集団に対応できる教員の指導力向上 ・生徒指導、教育相談スキルの向上

	な生徒指導の推進	2 HR担任だけではなく、教職員全員で生徒指導にあたるという意識が向上した。	・危機管理意識の高揚 ・家庭、地域社会及び関係機関等との連携促進
進路指導	・調査、検査結果を用い、個々に応じた指導 ・共通理解と協働体制のもとでの進路指導 ・進路意識の向上と職業観の育成 ・教務部と連携した進路マップの導入	1 進路意識の向上と職業観の育成に向けた取組は充実された。 2 生徒の資料を活かしきれていない。継続課題となった。 3 共通理解と協力体制は構築されつつある。教職員の共通理解による協力体制は得られやすくなった。	1 生徒個々の情報の活用方法を検討する。継続 2 進路実現に必要な学校体制(分掌間連携)づくりを推進する。進行中 3 進学指導に力を入れる。(普通科) 4 インターンシップは全定合同で夏季休業中に実施する。
健康安全指導	・健康、安全、事故防止 ・施設、設備の安全点検及び修繕に対する迅速な対応 ・日常的な清掃活動から生徒の美化意識高揚	1 清掃、美化活動、生徒の健康・安全及び事故防止指導の継続した取り組みが出来た。 2 各自、管理責任教室を定期的に点検し、施設・設備の安全点検に努める。	1 職員室、管理教室を含め、日頃から整理整頓に努める。
学級学年経営	・学級経営計画の作成 ・学年、学級経営を相互理解のもと協力して行う ・基本的生活習慣の確立	1 学年年間経営計画が明確であり、協働・連携のもとで進んでいる。 2 学年団、HR担任・副担任の連携が取れている。 3 学年主任のリーダーシップが発揮されている。	1 学級、学年経営ビジョンを共有し、生徒には充実感と感動、夢を与えられる経営が求められる。 2 学校の情報発信不足と家庭学習の定着は喫緊の課題である。
特別活動	・前年度の反省を活かし、指導計画を作成 ・生徒会活動は自発的、自治的な実践活動を展開 ・部活動は生徒の興味、関心、地域、学校の実態を考慮する。	1 生徒会活動の充実が図られた。 2 部活動の活性化が顕著となった。 ・男子テニス部総合優勝 ・サッカー部ベスト4 ・演劇部最優秀賞 ・放送局全道最優秀賞等々 3 前年度の反省を活かす取り組みが出来た。 4 教職員のワークシェアが進み、ゆとりから課外活動の充実へ繋がった。	1 各行事や活動を丁寧に取扱い、年度を経る毎に生徒の充実感につなげる。 2 生徒による自治の意識高揚を図り、自分たちで考え、道徳心を持って行動できる生徒を育てる。
保護者との連携	・保護者への情報提供 ・公開授業や学校行事等に保護者が来校しやすい学校づくり	1 保護者への情報提供から教育活動への理解や協力を推進に努めた。 2 教職員と保護者との意識の間にギャップが昨年度よりも改善され、課題意識の共有が図られるようになってきた。	1 教育相談、家庭訪問、地区別懇談会等をとおして、家庭との連携を密にする。 2 情報発信を継続して推進していく。 3 保護者の声に傾聴し、学校課題を見出す。

平成24年度 北海道音更高等学校学校評価 学校関係者評価書

学校関係者評価の基準

【 A : 十分 B : 概ね十分 C : やや不十分 D : 不十分 】

【 A : 4 B : 3 C : 2 D : 1 】

【 A : 4~3.5 B : 3.4~2.5 C : 2.4~1.5 D : 1.4~1 】

分野 領域	取り組んだ項目	達 成 状 況	改 善 の 方 策	評価
学 校 経 営	・校内研修の充実 ・授業参観週間を継続して設定 ・時数確保 ・シラバスの有効活用 ・協働体制構築 ・職員評価に伴う各教員の自己目標設定 ・地域との各種連携 ・昨年度の学校評価を振り返り、教育活動全般に改善を促した	1全項目とも計画どおり実施した。 2校内研修は「授業規律」「評価の工夫」「積極的な生徒指導」について実施した。 3授業参観週間は昨年度より合評会まで実施した結果、授業改善に取り組む意識高揚が図れた。 4全教職員の共通理解と工夫により時数35週確保ができた。 5シラバスは全定ともに整備され、生徒による自己評価と教科担任による所見記入により、生徒との信頼関係構築に繋がった。 6管理職自ら率先垂範し、コミュニケーションから生まれる協働体制作りに努め、相互扶助の意識高揚が図れた。 7各種教育活動において反省を活かし改善する姿勢が見られるようになった。	1 学校評価・学校職員評価システムの適切な実施 ・マネジメントサイクルの確立 ・評価結果の有効活用 ・教職員個々の意識の把握 2 経営方針の具現化に向けた計画的な準備 ・コミュニケーション向上から生まれる組織力・協働意識の形成 3 ミドルリーダーの養成 ・時代の要請、教育改革の動向を踏まえた情報提供 ・教育活動相互の関連づけを意識するなど、通知等の平易な説明 4 授業評価の実施 5 外部研修成果の還元促進 6 管理職による率先垂範	A 3.7
・地域における音更高校の評価は高い。 ・道立高校でありながら、町の総合計画に位置づけられている。 ・学校開放講座により高校の教育力が地域住民に還元されている。 ・6年前より非常に学校が改善されている。最近は音更高校の生徒だと胸を張れる高校になってきた。				
教 科 指 導	・指導計画の具現化 ・基礎学力の定着 ・組織間連携の充実 ・評価の在り方 ・個に応じた学習指導 ・学習習慣の確立 ・授業規律 ・教材研究 ・習熟度別学習指導の実施 ・TT学習指導の実施 ・基礎補習指導の実施 ・放課後、土曜日、長期休業中の進学	1 協働意識があり、連携を昨年以上に実感している。 2 生徒が落ち着いていたが、更に個々の生徒の成長を目指し、授業規律の研修を実施した。 3 年間指導計画が明確である。 4 シラバスが全定共に整備され、教科科目の指導充実に繋がった。 5 個々の生徒に応じた教材研究が不十分だった。 6 生徒の学習習慣の未確立。 7 評価について研修を深める必要がある。 8 進路指導部と連携し、進学指導の有機的・組織的取組のきっかけづくりが教職員の共通理解の	1 本校教職員の協働意識や連携を大切に、まずわかる授業から基礎基本(確かな学力)の定着を目指す。継続 2 教材研究の時間を確保する為にワークシェアを推進し、業務の偏りが生じないよう管理職、部長、主任を中心に職場環境づくりに取り組む。継続 3 個に応じた学習指導の確立に向けて、育てたい生徒像を明確にし、教育課程の編成や教科科目に応じた対応、学級編成の在り方等、幅広く検討していく。継続 4 家庭学習の推進について検	B 2.5

	講習の実施	もと、進みだした。	討が必要。	
	・家庭との連携からも学習習慣の確立に取り組んで欲しい。 ・先生方が頑張っている様子が見られるようになった。 ・生徒は家庭における勉強の仕方が分からないでいる→将来の目標を持たせる指導から自己理解と自発的な取り組みに繋がるのでは？ ・新しいことに取り組むことは良いことである。教師の働きかけとアドバイスが重要			
生徒指導	・組織的な教育相談の充実 ・教育相談委員会の活性化。月に1度の定例会の開催 ・個に応じた積極的な生徒指導の推進	1 教育相談の充実が図られ、教職員間で情報の共有化が進んだことにより、中途退学者の減少と特別指導件数の減少に繋がった。特に、後期は特別指導件数は0件となった。 2 HR担任だけではなく、教職員全員で生徒指導にあたるという意識が向上した。	1 積極的な(予防的な)生徒指導の理解と促進 2 多様な生徒集団に対応できる教員の指導力向上 ・生徒指導、教育相談スキルの向上 ・危機管理意識の高揚 ・家庭、地域社会及び関係機関等との連携促進	B 3. 3
	・退学者数がここ数年で激減していることから、先生方の力が向上していることが分かります。 ・音更高校生徒の挨拶は素晴らしい。 ・学校全体が穏やかになった。			
進路指導	・調査、検査結果を用い、個々に応じた指導 ・共通理解と協働体制のもとでの進路指導 ・進路意識の向上と職業観の育成 ・教務部と連携した進路マップの導入	1 進路意識の向上と職業観の育成に向けた取組は充実された。 2 生徒の資料を活かしきれていない。継続課題となった。 3 共通理解と協力体制は構築されつつある。教職員の共通理解による協力体制は得られやすくなった。	1 生徒個々の情報の活用方法を検討する。継続 2 進路実現に必要な学校体制(分掌間連携)づくりを推進する。進行中 3 進学指導に力を入れる。(普通科) 4 インターンシップは全定合同で夏季休業中に実施する。	B 3. 2
	・国公立大学への進学する生徒がもう少し増えて欲しい。 ・生徒自身が進路希望を早めに決める指導が必要。			
健康安全指導	・健康、安全、事故防止 ・施設、設備の安全点検及び修繕に対する迅速な対応 ・日常的な清掃活動から生徒の美化意識高揚	1 清掃、美化活動、生徒の健康・安全及び事故防止指導の継続した取り組みが出来た。 2 各自、管理責任教室を定期的に点検し、施設・設備の安全点検に努める。	1 職員室、管理教室を含め、日頃から整理整頓に努める。	B 3. 4
	・教育環境に恵まれている本校を上手にPRしたら良いと考えます。 ・職員室の整理整頓が必要だと思えます。まずは教員自らが生徒の手本となるべきではないでしょうか。			
学級学年	・学級経営計画の作成 ・学年、学級経営を相互理解のもと協	1 学年年間経営計画が明確であり、協働・連携のもとで進んでいる。 2 学年団、HR担任・副担	1 学級、学年経営ビジョンを共有し、生徒には充実感と感動、夢を与えられる経営が求められる。	B 2. 6

経営	力して行う ・ 基本的な生活習慣の確立	任の連携が取れている。 3学年主任のリーダーシップが発揮されている。	2学校の情報発信不足と家庭学習の定着は喫緊の課題である。	
・ 目的、目標を生徒に持たせる指導を望む→自発的な家庭学習へ				
特別活動	・ 前年度の反省を活かし、指導計画を作成 ・ 生徒会活動は自発的、自治的な実践活動を展開 ・ 部活動は生徒の興味、関心、地域、学校の実態を考慮する。	1 生徒会活動の充実が図られた。 2 部活動の活性化が顕著となった。 ・ 男子テニス部総合優勝 ・ サッカー部ベスト4 ・ 演劇部最優秀賞 ・ 放送局全道最優秀賞等 3 前年度の反省を活かす取り組みが出来た。 4 教職員のワークシェアが進み、ゆとりから課外活動の充実へ繋がった。	1 各行事や活動を丁寧に取扱い、年度を経る毎に生徒の充実感につなげる。 2 生徒による自治の意識高揚を図り、自分たちで考え、道徳心を持って行動できる生徒を育てる。	A 3. 5
・ 部活動の活躍は素晴らしかったですね。 ・ より一層報道関係へのPRと学校の情報発信を。 ・ 活発な取り組みとなっています。この調子で次年度も頑張ってください。				